

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報									
事務事業名	604 営繕工事事務								
戦略プラン					担当部課 係名	建設部公共施設整備課 建築第一係、建築第二係、建築第三係			
総合戦略					新規・継続	継続			
					事業分類	法定事務			
予算科目	01-080101-14 営繕事務に要する経費			市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解 <input type="checkbox"/> 企画・立案、計画 <input type="checkbox"/> 実行 <input type="checkbox"/> 評価・検証				
要求区分		事業期間							
個別計画									
根拠法令	地方自治法			事業体制	職員のみ				
				市長公約					
概要									
事業の目的				事業の概要					
<p>公共施設整備課で営繕工事等の発注及び監督業務等に係る事務を一括して行うことで、市有建築物に係る工事の品質を確保するため。</p>				<p>1 設計工事額130万円を超える営繕工事の発注及び監督業務を行う。 2 営繕工事に係る設計業務の発注及び監督業務を行う。 3 おおむね10万円から130万円までの修繕工事の発注及び監督業務を行う。</p>					
評価									
事業計画				活動実績					
<ul style="list-style-type: none"> 営繕工事の発注・監督 60件 営繕工事に係る設計業務の発注・監督 33件 修繕工事 約1,000件 				<ul style="list-style-type: none"> 営繕工事の発注・監督 59件（うち継続事業2件） 営繕工事に係る設計業務の発注・監督 40件 修繕工事 712件 					
成果				課題					
<ul style="list-style-type: none"> 適正な工事内容での発注及び監督業務を的確に実施できるようになり公共建築工事の品質が確保された。 設計業務において営繕積算システムを導入したことにより積算の精度向上が図られた。 				<p>建築工事の監督業務には、建築・設備・構造などの高い専門知識が要求されるため、人材育成が必要である。</p>					
改善目標（R02年度にむけて）									
<ul style="list-style-type: none"> 適正に事務を執行するには建築専門職の増員と人材育成を行う。 									
指標の推移									
1	指標名	営繕工事の契約数					(件)		活動指標
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	実績	30.0	24.0	26.0	23.0	42.0	57.0	0.0	
	指標の概要								
2	指標名	営繕工事の設計業務の契約数					(件)		活動指標
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	

	指標の概要	令和元年度からの新規業務						
3	指標名	修繕工事の依頼数 (件)					活動指標	
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	712.0	0.0
	指標の概要	令和元年度からの新規業務						
4	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	()						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	2,766	242	3,967	0
事業費計		(千円)	2,766	242	3,967	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	8.50	15.42		
		時間外勤務 (時間)	460.25	866.00		
	臨時職員等	(有無)	有	無		
人件費		(千円)	61,128	106,726		
事業コスト		(千円)	63,894	106,968		

R02年度当初積算根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●旅費…146千円 (普通旅費 122千円) (特別旅費 24千円) ●需用費…1,208千円 (消耗品費 1,208千円) ●使用料及び賃借料…1,782千円 (使用料 360千円) (賃借料 1,422千円) ●備品購入費…105千円 (管理用備品 105千円) ●負担金補助及び交付金…726千円 (負担金 726千円)
-------------	---

予算の方向性	理由	適正に事務を執行するには建築専門職の増員と人材育成が必要であるため
拡充		

方向性		
市民ニーズ	1	ニーズはほとんどない、又は不明である。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	3	法令等により、市の実施が定められている。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		